**IELTS最重要！文法・語法ルール30を完全マスター!!**

ライティングの評価基準において、**文法と語法の割合は合計50%を占める**ため非常に重要です。しかしながら、知識はあってもいざ書いてみると気づかないうちにミスを犯しているケースがよくあります。ここでは、IELTSでよく見られるミスや重要な項目を「文法編15」、「語法編15」の2つに大きく分けて厳選しました。効果的な活用方法としては

**① 一読する→ ② エッセイを書く→ ③ 再読してセルフチェック**

という流れです。何度も繰り返すことで自動的に正確に運用できるようになります。まずは「**文法編**」からです。それでは早速まいりましょう！

**最重要文法項目トップ15**

**1位. For exampleの後ろにSVを従えているかを確認せよ！**

for example[instance]は副詞扱いのため、文頭で使う場合“**For example, S V**.”の構造が原則です。よって次のような名詞を列挙した英文は誤りです。

[×] When choosing a job, people consider a number of factors. **For example**, salary, employee benefits and location of the workplace. ➤**名詞の列挙は不可。**

（仕事を選ぶ際は、いくつかの項目を考慮する。例えば、給与、福利厚生、勤務地などである）

よって次のように変える必要があります。

[〇] When choosing a job, people consider a number of factors. **For example**, **they include** salary, employee benefits and corporate culture. ➤ SVを従える。

このことから、for exampleを文頭で使う際はSVが来ているか毎回確認してください。ただし、次のように文頭ではなく挿入的に使うことは可能です。

[〇] There are eight planets in the solar system, **for example** Mars, Jupiter and the Earth. (太陽系には8つの惑星がある。例えば、火星、木星、地球などである)

➤ この場合は**SV, for example 名詞.**の形が原則。

**2位. HoweverとThereforeは副詞！接続詞としては使用不可！！**

この2語は**接続副詞**と呼ばれ、前に紹介したfor exampleと同じ副詞です。よって接続詞としての使用は不可です。まずhoweverを用いた次の英文は誤りです。

[×] Robots brings numerous benefits, **however,** it can cause trouble.

（ロボット工学は数多くの恩恵をもたらすが、問題を引き起こすこともある）

➤このようにSVはつなげないため、以下の3つの方法で改善が必要です。

① [〇] Robots bring numerous benefits, **but** [(**and**) **yet**] , it can cause trouble.

② [〇] Robots bring numerous benefits. **However**, it can cause trouble.

③ [〇] Robots bring numerous benefits**; however**, it can cause trouble.

①はbutか (and) yet に変える、②は文を一度区切り文頭でHoweverを使う、そして③のようにセミコロンを使う用法です。

同じく**thereforeも副詞なので**、次のようにSV同士をつなぐことはできません。

[×] Robots are increasingly being used in a wide range of industries, **therefore**, the need for human labour will be drastically reduced.

(ロボットは幅広い業界で利用が増えている。**従って**、人的労働力の必要性は大幅に減ることになる)

代替表現としては、, **and thereforeにするか、一度文を切ってから、文頭でTherefore**や**For this [these] reason(s)**を使うとよいでしょう。

**3位: 可算名詞と名詞の使い分けに注意！ ①**

ほとんどの名詞は可算名詞と不可算名詞の用法があり、英英辞典では可算名詞は**C**（**Countable noun**）、不可算名詞は**U**（**Uncountable noun**）と表記されています。例えばworkは「**仕事**, **作業**」の意味ではUですが、Cでは「**芸術作品**」、contentは「内容, コンテンツ」の意味ではU、「目次, 中に入っている物質」の意味ではCです。また、中には不可算名詞用法しかない語彙もあり、garbage（ゴミ）, software（ソフトウェア）などはその代表例です。以下にIELTSで運用する機会が多く、ミスを犯しやすい不可算名詞を集めました。一部例外はありますが（例: information, aid）これらの語はa / anが付いたり、複数形になりません。これらの語を使う際は特に注意して運用しましょう！

|  |  |
| --- | --- |
| **カテゴリー** | **不可算名詞一覧** |
| 情報 | data / research / evidence / news / information / knowledge / advice / feedback |
| エネルギー | power / energy / electricity / water / sun / oil / heat / air / alcohol |
| 作業・労働 | housework / homework / labour / employment / management |
| 支援, 金銭 | support / assistance / aid / encouragement / maintenance / spending |
| 損害, 損失 | damage / harm / destruction / pollution / disappearance / extinction |
| 感情, 性質 | happiness / motivation / stress / pressure / confidence / fun / determination |
| 活動, 行為 | shopping / leisure / travel / training / advertising / performance / attention  |
| 状態 | appearance / weather / health / traffic / access / freedom / security / rhythm |
| 過程, 形態 | education / transport / recycling / consumption / cooperation / progress |
| 集合体 | entertainment / equipment / furniture / machinery / garbage / staff  |

ちなみに可算名詞と不可算名詞の見分け方の主な基準は「**触れられるか**」と「**絵に描けるか**」の2つです。いくつか抜粋するとenergy, support, peace, furnitureは触れることや、絵にかくこともできませんね。いやfurnitureはそうでないだろう？と思われるかもしれませんが、**それは椅子や机など個別の種類を指す場合**であってfurniture自体を描くことはできません。このような観点から考えることで覚えやすさもグーンとアップしますので参考になさってください。

**4位: such asやlikeを使う時は、名詞が一致するか確認せよ！！**

この2語は具体例を挙げる際に便利な表現ですが、用法に注意が必要です。次の英文はlike / such asの使い方が誤りなので、改善方法を考えてみてください。

[×] Governments should spend more money **such as** healthcare and education.

わかりましたか？A such as [like] Bとする場合、**AはBを包括する語**でなければいけません。言い換えると、**BはAの一例**でなければいけません。例えば、play team sports **such as [like]** football and basketballであればfootballやbasketballはteam sportsの一例であり、かつteam sportsはこの2語を包括する語ですね。

しかしながら、この文ではsuch as 以下のhealthとeducationを包括する名詞がないためそれを次のように、包括語を補えば正確な文に変わります。

[〇] Governments should spend more money on **public services** such as healthcare and education. ➤ healthとeducationを包括するpublic services（公共のサービス） を入れることでA such as Bが成り立ちますね。

（政府は、医療や教育といった公共サービスにより資金を使うべきである）

**5位: 「手段」を表すbyを使う場合は細心の注意を払え！**

問題です。以下の英文で誤りが一カ所あるので、考えて訂正してください。

・ Youth unemployment can be reduced by education and training.

(若年者の失業は、教育と修業によって減らすことができる)

訂正箇所は、byで、byを**through**に変えます。「～（することに）よって」という意味でby ～を使う場合は、使用範囲が狭く、以下2点の用法で使います。

**1. by＋「無冠詞の名詞」**

これは熟語的に使われ、by busやby phone、by land（陸路で）、by vote（投票で）、by rote（暗記で）、by instinct（本能で）などの定型表現が一般的です。

**2. by doingのように後ろに動名詞を従える**

[✖] Children can learn logical thinking by maths. ⇒ 名詞は不可

[〇] Children can learn logical thinking by **studying** maths. ⇒ 動名詞で書く

（子供は、数学を**学ぶことによって**論理的思考を身に付けることができる）

よってこれらの用法以外で**手段**を表す際はbyではなく**through（～を通じて、～の助けを借りて）**を用います。

・Poverty can be reduced **through** education and vocational training [international cooperation. （貧困は教育と職業訓練 [国際協力]により緩和される）

また、「～の力を借りて」といったように、特定の手段、方法、人の力などを強調したい場合は**via**（～を用いて, 介して）を用います。

・Business meetings should take place **via** video conferencing.

（仕事の会議はビデオ会議で行われるべきである）

**6位：定冠詞の有無に注意せよ！**

何の根拠もなくなんとなく名詞にtheを付ける人が多くいますが、ネイティブにとっては**名詞を特定するための重要な目印**であり、日本人が考えるより大きな役割を持っています。例外が多いので全てカバーできませんが、原則としてtheをつける場合は「**前に登場した名詞**」、「**1つしか存在しない名詞**」、「**読み手も理解している名詞**」です。ここではこれ以外の原則theが必要なIELTSで重要な名詞一覧を紹介します。何度も見返して運用力を高めていきましょう。

**定冠詞theが必要な名詞一覧**

|  |  |
| --- | --- |
| **分類** | **語彙** |
| **宇宙** | the universe / the Sun / the Earth / the Solar System \*  |
| **環境** | the environment / the sky / the weather / the ocean / the equator the atmosphere / the sea / the food chain / the natural world |
| **特定の集団（形容詞にtheを付ける）** | the rich / the poor / the young / the elderly / the famous / the homelessthe unemployed/ the self-employed / the educated（教養人）  |
| **年代、期間、時代** | the 21st century / in the 1990s / at the beginning [end] of ～ the Stone Age / in the modern world / in the digital [information] age |
| **特定の（歴史上の）出来事** | the Olympics [= the Olympic Games]the Industrial Revolution / the Second World War \*\* |
| **特定の区分、層** | the age group（年齢層）/ the low-income bracket（所得階層） the ～ industry [sector] / the working population（労働人口） |
| **特定の国名** | the UK\*\*\* / the US(A)\*\*\* / the Philippines / the Netherlands /  |
| **臓器、器官** | the brain / the heart / the nervous system（神経系） |
| **その他** | the same / the internet / the case / the truth / the fact / the rest |
| **対の要素を表す物** | the past ⇔ the present ⇔ the future North Pole（北極点）⇔ the South Pole（南極点） |

\* これ以外の惑星は無冠詞で表します（例 Mars「火星」/ Jupiter「木星」）

\*\* はWorld War Twoも可。 \*\*\* UKやUSのように無冠詞も可能

**7位：何についてのFirstly、Secondlyかを明確にせよ！**

これは理由や具体例を述べる際に、何に関してのFirst(ly)やSecond(ly)なのかが書かれていないミスを指します。その例をご覧いただきましょう。

[△] I believe students should focus on studying philosophy. **Firstly**, they can learn practical skills like reasoning and problem-solving. ➤ 何が**Firstly**か不明

つまりFirstly以下が何の一つ目のなのか（理由、何かの側面、メリットなど）が不明瞭なので、以下のようにカテゴリーを明確にすれば文が改善されます。

[〇] I believe children should study maths until they leave school **for several reasons.** **Firstly**, they can learn practical skills like reasoning and problem-solving.

➤ for several reasonsを付けると、Firstlyが**一つ目の理由**、ということを明確化。

（いくつかの理由で、学生は哲学を学ぶことに焦点を置くべきだと強く思います。一つ目は、論証力と問題解決能力といった実践的なスキルを身に付けることができるからです）

特にパラグラフの最初でFirstly, のように始めがちな方は、The first **reason** [**advantage / point**] is …. のように項目を明確にして書く習慣をつけましょう。

**8位. – Tautology（類語反復）に要注意！**

突然ですが問題です。次の英語はどこに誤りがあるか考えてください。少しチャレンジングですがトライしてみましょう！

(1) The company has invested in new technological innovations for years.

(2) The number of the world’s population has more than doubled over the last 50 years.

答えは(1)は**newが不要**、(2)は**The number ofが不要**、となります。まず(1)はinnovationという単語にnewの意味が含まれているためnewが重複しています。同じく(2) population = the number of peopleであり、**population自体にnumberが含まれている**ため不要です。このようなよく似た意味の語を繰り返してしまうことを**tautology（類語反復）**と言います。日本語でも「もう一度繰り返す」は「繰り返す」という語に「もう一度」の意味が含まれているため冗長ですね。以下にtautologyの代表的なミスを挙げておきますので確認しておきましょう。

[✖] today’s modern ⇒ [〇] modern [✖] current trend ⇒ [〇] trend

[✖] completely destroy ⇒ [〇] destroy [✖] foreign import ⇒ [〇] import

[✖] discover a new cure ⇒ [〇]discover a cure

[✖] different kinds of ⇒ [〇] different / a variety of

[✖] In my opinion, I believe SV. ⇒ [〇] In my opinion, SV.

**9位 : governmentにはすべてtheが付くとは限らない！**

Task 2では「政府が～すべきである」のように書くことがよくありますが、次のように**機械的にgovernmentにtheを付けるのは避けてください**。“the government”とできるのは、**どこの国の政府か、地域の自治体かが文脈上明白な場合**です。それ以外の場合は次のようにどこの政府かを明確にして書きます。

[〇] **The Japanese [UK] Government** should make recycling a legal requirement.

[〇] **In Japan [the UK]**, **the government** should make recycling a legal requirement. （日本[イギリス]政府はリサイクルを法令にするべきである）

よって、一般論で「政府は」と書く場合は次のように複数形で表してください。

[〇] **Governments** should make recycling a legal requirement.

**10位：動作をする主体が明確か毎回確認せよ！**

英語では「**誰が行為を行うのか**」という主体を常に意識し、明確にしなければいけません。例えば次のような英文は改善が必要です。

[△] I believe it is important to teach children good behaviour.

これだと「適切なふるまいを子供に教えるのは誰か」が不明瞭です。よって伝えたい内容によって次のように主体をはっきりさせることが必要です。

[〇] I believe it is important **for parents [schools]** to teach children good behaviour.

ですので、文脈から明らかな場合を除き、**動作主が明確か**という点に注意が必要です。

ちなみに中学で学習するIt is … for ～ to doの形ですが、for ～を「～にとって」と覚えていると運用できません。これはあくまで「**～がdoすることは…だ**」のように～は「**動作主**」として覚えておきましょう。IELTSでは次のような語がよく動作主として使われるので要チェックです。

|  |
| --- |
| government / businesses（企業：複数形で使う）/ community（地域社会）/ individuals（個人）/ charitable [voluntary] organisations（慈善団体）developing [developed] countries（発展途上[先進]国）/ schools / parents |

**11位. theとitsの違いに注意！**

この２語は誤って使うと読み手を混乱させてしまいます。the＋名詞は**前述の語**を、一方its名詞は前述の「**前述の語が持っている**」という**所有を表す代名詞**です。次の例で確認しておきましょう。

・ Kyoto is famous for **its** [✖the] rich history. （京都は、豊かな歴史で有名である）

➤ 「Kyotoが**持っている**豊かな歴史」 という意味なので所有の**its**

・　I visited a lot of tourist attractions when I went to the UK last year. For me, the best one was the British Museum in London, but **the site** was packed with tourists.

（昨年イギリスにいった時、多くの観光地を訪れた。一番良かったのは大英博物館だが、観光客で溢れかえっていた）

➤ the siteは**the British Museum**を指します。its siteだと意味が不明です。

では最後に2つの要素が入った英文をご覧いただき、さらに理解を深めましょう。

・ I enjoyed an incredible firework display in Sydney ten years ago. **The show** was truly amazing and I can still remember **its** vivid spectacle.

（10年前、シドニーで感動的な花火を楽しんだ。そのショーは本当に最高で、今でもそのまばゆい光景を覚えている） \* vivid spectacle まばゆい光景

➤ The showは前述の“firework display”を、そしてitsは「その（= それが持っていた）光景」を指します。

**12位. despite, in spite of, due to, because ofは全て前置詞扱い！**

**名詞を従えているかを確認せよ！**

これらの4語はat, of, aboutなどの前置詞と同じ役割を果たすので、後ろに名詞を従えるため次のようにSVを取ることはできません。

[×] **Despite road networks have been improved**, traffic congestion in the city centre is still a problem during the peak hours. ➤ このように**Despite SV, は不可**。

これには2つの改善方法があり、次の例文のように1つ目は**Despiteを接続詞AlthoughやEven thoughに**、2つ目は**Despite以下を名詞に変える**形です。

[〇] **Although road networks have been improved**, ➤**Although ＋ SV,** とする

[○] **Despite the improvement to road networks,** 　➤ **Despite＋名詞句**, とする

同じようにdue toやbecause ofも前置詞扱いのため、SVを取ることができません。使う際は**名詞を従えているか**を確認して運用するようにしましょう。

**13位: 日本語に引きずられて過去形を使ってしまうミスに注意！**

「…は～した」と表現する際に、日本語につられてすべて過去形で書いてしまうミスが目立ちます。「**過去に起こってそれが今も継続している**」場合は**現在完了形**で書く必要があります。次の例で確認しておきましょう。

[✖] Remote learning became popular in recent years.

(遠隔学習は、ここ数年で一般的になった)

[✖] Social networking changed the way people communicate.

 (ソーシャルネットワーキングは、コミュニケーション方法を変えた)

過去形を使うと、昔はそうだったが今はそうでない、のように**過去に焦点が当たります**。これらは今も状態が継続しているので、次のように書きます。

[〇] Remote learning **has become** popular in recent years.

[〇] Social networking **has changed** the way people communicate.

このことから、伝えたい事実が「**今も継続しているのか**」という点を考慮して時制を選ぶように心がけましょう。

**14位:厳選スペリングミスをチェック！**

正しいスペリングは文法の評価基準で非常に重要です。以下に特に重要な項目を厳選しました。しっかりと確認してミスを最小限に減らしましょう。

|  |  |
| --- | --- |
| **項目** | **例・解説** |
| **動詞と名詞で紛らわしい語** | [動] maintain ➤ [名] maint**enance**[動] pronounce ➤ [名] pron**unciation** |
| **複合語で間違えやすい語** | ✖ ~~work force~~ 〇 **workforce** / ✖ ~~birth place~~ 〇 birthplace✖ ~~work place~~ 〇 **workplace** / ✖ ~~life style~~ 〇 lifestyle  |
| **単/複で混同しがちな語** | [単] hypothes**is**  [複] hypothes**es** [単] cris**is** [複] cris**es**[単] phenomen**on** [複] phenomen**a** [単] syllab**us** [複] syllab**i**[単] curricul**um** [複] curricul**a**  [単] criteri**on** [複] criteri**a**   |
| **混同しやすい語** | ・every day 毎日 everyday 毎日の・sometimes 時々 some time / sometime ～頃・dependent 依存している dependant （子供の）被扶養者 |
| **その他（テスト前に必ずチェック！）** | a**cc**o**mm**odation / ab**se**nt / ac**celer**ate / a**cqu**ire / r**hy**thm a**cqua**intance / co**mm**itment / di**sci**pline / enviro**n**ment gover**n**ment / particu**larly** / **psycho**logy / para**llel /** spe**cies**occu**rred** / a**dd**re**ss** / entre**preneur** / question**naire** / con**sc**ious |

もしタイピングを練習される場合は、**スペルチェック機能を必ずオフ**にしてください。そして、エッセイを書き終わったらオンにしてミスがないかを確認すればよいでしょう。また、表記はイギリス英語、アメリカ英語のどちらを用いても構いませんが、混在しないように統一して書くように心がけてください。

**15位 – Wordiness（冗長さ）がないように注意せよ！**

Wordinessとは「**無駄が多いこと**」の意味で、不要な語を多用してしまうことを言い、Verbiageとも呼ばれます。まずは改善が必要な次の英文をご覧ください。

[△] **There are many people who** claim that technology brings huge benefits to the public.

（テクノロジーは人々に大きな利益をもたらす、と主張する人たちが多くいる）

この文は文法、語法ともに正しい文です。しかし、アカデミックライティングでは**Concise**（無駄がない= brief and easy to understand）に書くのが原則なので、この文章は**There areの箇所が不要**です。これは日本語につられて訳してしまいがちですが、There are自体は何の意味もなさず、無駄なので次のように書き換えが必要です。

[〇] **Many people** claim that technology brings huge benefits to the public.

この文はわずか3語の削減ですが、当然長い文章になればなるほど、Conciseな英文が好まれます。このThere are many (some) people系以外のよく見られるWordyな表現を挙げておきますので、〇で示した表現に変えて書くようにしましょう。

[△] I am of the opinion that ⇒ [〇] I believe that

[△] Despite [In spite of] the fact that, ～. ⇒ [○] Although, ～.

[△] As a matter of fact ⇒ [〇] In fact 　[△] Due to the fact that ～ ⇒ [○] Because

以上で重要文法項目15のレクチャーは終了です。お疲れさまでした。では続けて語法編です。ここでは語彙の運用力をグーンとアップさせるレクチャーを行っていきます。少しブレイクして引き続き頑張っていきましょう！

**最重要語法項目 トップ15**

**１位 first, at first, first of allの使い分けを理解して運用せよ！**

この3語は意味が似ていますが、次のようにニュアンスや用法が異なります。

◆ **first** / **firstly（第一に）**

特定の**項目を列挙する際に**用いる。つまり**Firstly,** ～.やThe **first** advantage isのように出てくると、読み手にsecondやnextなどの語を予期させ、複数の続く項目があることを暗示する働きがある。

◆ **at first（最初は）**

firstと異なり「**最初のうちは**」という意味で、これ以降に変化を予期させる。例えば「最初は上手くいっていたが、途中から問題が明るみになり・・・」といったニュアンス。よって、firstのように具体例を順番に列挙する場合には使わない。

◆ **first of all（まず何よりもはじめに）**

「最初」を強調した語。スピーチやレクチャーの導入でよく使われるが、**カジュアルなためライティングでは使用不可**。加えて、類語のin the first placeもインフォーマルなためライティングでは使わない。

**2位. lead to 動詞, contribute to 動詞は不可！**

lead to （結果～になる）とcontribute to（～の一因となる）を使う際、**to以下には動詞ではなく、名詞**が来ます。次のように原型動詞を置くことはできません。

[✖] Stress can lead to increase the risk of heart attacks.

このように動詞は不可なので、次のように名詞に変える必要があります。

[〇] Stress can lead to **an increased risk** of heart attacks.

 （ストレスは、心臓発作リスク上昇につながる可能性がある）

また、次のように動名詞でも可能ですが、名詞の方が圧倒的に多いので、名詞で書く方がよいでしょう。

[△] The measure can contribute to **protecting the environment**.

[〇] The measure can contribute to **environmental protection**.

（その施策は環境保全の一助となる可能性がある）

**3 位. especiallyは文頭で使わない！**

「特に～」と言いたい場合にEspecially, SV.のように**文頭で使うことはできません**。これらは意味が**広い包括的な語の中から特定の語を強調して特に**、という場合に使われます。次の例が一般的です。

・ I love outdoor sports, **especially** [**particularly**] football and cycling.

⇒ outdoor sportsの中からfootballとcyclingを強調

・Financial support should be given to students, **especially [particularly] those** from disadvantaged backgrounds.

（経済支援は、学生、経済的に困窮した背景を持つ学生になされるべきである）

⇒ まずstudentsと述べ、どのような学生か絞り込んでいますね。このthoseはstudentsと重複を避けるための代名詞でこの形でよく使われます。

よって、文頭で「特に」としたい場合は、**In particular**を使います。

Online shopping is now widely used by people of all ages. **In particular** [✖ **~~Especially~~**], young people are the most frequent user of this service.

**4位 「人間」と言いたい場合humansの“s”抜けに注意！**

humanは「**人間の**」という形容詞なので、「人間」としたい場合はhumansのように**sが必要です**。これに関連して「人間」と表現したい場合は次の語を主に使います。使い分けを明確にして運用しましょう。

**・ humans：** 最も一般的な語で、特に動植物や機械との対比で用いられます。

例） Robots can replace **humans**. （ロボットは人間に取って代わる可能性がある）

**・ humankind：** humansの固い語で、ライティングに適した語です。

例) in the history of **humankind**（人類の歴史において）

**・ humanity:** humansよりも広義で「人類」や「一般の人々」という意味で使います。

例) a threat to **humanity**（人類への脅威）/ benefit all **humanity**（人類に恩恵となる）

**・ human beings:** anthropology（人類学）でよく使われ、いわゆるホモサピエンスや、ネアンデルタール人といった種や人類の進化に用いられます。

例) the evolution of **human beings**（人類の進化）

before **human beings** appeared on the planet（人類が地球上に誕生する前）

**4位 affectと influenceの使い分けをマスターせよ！**

この2語は非常に似ていますが、以下のような違いがあります。

**〇 influence（間接的に影響に影響を与える）**

視覚的にわかりにくい変化や**思考や行動への心理的影響**を指し、「人生への影響」、「遺伝的影響」、「政治的影響」などが代表例。動詞と名詞の用法があるが、名詞の使用頻度が高く、次のように形容詞を付けることが多い。

・Films and TV games containing violence have a **negative influence** on children.

（暴力を含む映画やテレビゲームは、子供に悪影響を与える）

**〇 affect（直接的に影響を与える）**

「被害」のニュアンスがあり、マイナスの意味で使われる。「災害による影響」や「健康への被害」など**結果が目に見えてわかる場合に用いられる**。ただし、「間接的影響（=influence）」を表すこともある。

・The flood seriously **affected** the area.（洪水はその地域に深刻な影響を与えた）

⇒ 被害状況が目に見えてわかるのでinfluenceでなくaffectが適切。

・ Work environments can **affect** mental health.

（職場環境は、精神衛生に悪影響を与えることがある）

⇒ influenceにすると、ニュートラルな響きで何かしら影響があるという含み。

**6 位 will = 「だろう」ではなく、「だ」のマインドに変えよ！**

will = 「～だろう」と覚えている人が大半ですが、ほとんどの場合**willは「～だ」**の使い方が一般的です。例えば次の英文をご覧ください。

[△] Having a university degree **will** lead to a successful career.

このままだと「大学の学位を持っていると**確実に**キャリアで成功する」という断定的な響きがあります。つまり**will**は「**ほぼ間違いなく、100%～だ**」というニュアンスなので、Task 2で自分の考えを述べる場合は語気緩和が必要です。そのためには次のようにwillと相性の良い**likely, probably, potentially**などを使います。

[〇] Having a university degree **will likely** lead to a successful career.

（学位を持っていることは、キャリアで成功する可能性が高い）

ただし、確証があって予測されていること（例: 世界の人口が増加する、地球温暖化が深刻になる）、またはTask 1のグラフ問題で予測値などの統計データがある場合は「～と予測される」（= be projected to）という用法で次のように使うことが可能です。

[〇] The population of the city **will** reach around 3.5 million in 2050.

よって、自身の意見を述べる必要がある**Task 2におけるwillは語気緩和が必要**、データが示されているTask 1で**予測を表す際には使用可能**、と覚えておきましょう。

**7位: 「最近」を表す語の使い分けを理解して運用せよ！**

**「**最近」や「今日」を表す語の使い分けは非常に重要です。ここでは各語のニュアンスとフォーマル度をマスターしておきましょう。

|  |  |
| --- | --- |
|  | **使い分け、ニュアンス** |
| **today** | 「昨今では」という意味。現在形、現在完了形、過去形で使用可能。他の語と異なり、today’s childrenのように所有の用法がある。 |
| **nowadays** | 「昔と違って今は」という過去と現在の対比を強調する語で、文頭で用いる。意味が同じthese daysは会話向きのため使用不可。 |
| **recently**  | 現在完了形か過去形で用い、強調する場合はmost recentlyのようにmostを付ける。また、in recent yearsとするとさらに固くなる。 |
| **lately** | recentlyの話し言葉で、現在[過去]完了形で使われる。カジュアルなためライティングでは使わない。 |
| **currently** | 現在形、現在完了形、現在進行形で使用可能。「まさに今その状態が進行中」という今現在を強調した語。 |
| **now** | 現在形、現在進行形と使う。「まさに今（= at the moment）」と「今現在（＝ at the present time）の両方の用法がある。 |

ここでの注意点は、**文頭でこれらの語を極力使わないこと**です。例えば、Now, ～.やToday, ～.のようにするとカジュアルに響きます。つまり、Today, young people spend ～.とするよりも、Young people **today** spend ～.のように動詞の前に置くのが一般的です。加えて、Recently [In recent years / Nowadays], ～. のように文を始める人がいますが、多くの受験者が機械的に使いがちで単調です。よって、文頭での使用は避けて書くようにしましょう。

**8位: 「～を知る」の使い分けをマスターせよ！**

まず注意点として、knowは「～を知る」という意味ではなく、「～を知っている、～に関する知識がある」いう状態を表す動詞です。よって、「～を知る」という動作を伝える場合は、別の表現を使わなければいけません。以下によく使うフレーズを挙げておきますので、文脈により使い分けて書くようにしましょう。

・ **learn about** （～の知識や認識を深める）

➤ learn about different cultures（異文化について知る）

・ **acquire knowledge of** （～の知識を得る、身に付ける）

➤ acquire knowledge of research methods（リサーチ方法について知る）

・ **develop [gain] an understanding** of ～ （～に対する理解を深める）

➤ develop an understanding of global issues（世界の問題に対して理解を深める）

・ **become aware of** ～ （～を知る、気づくようになる）

➤ become aware of the impact of global warming （地球温暖化の影響に気づく）

・ **become familiar with** ～ （～に詳しくなる）

➤ become familiar with online learning（オンライン学習に詳しくなる）

**9位 ratioとrateの使い方に注意！**

この2語はTask 1で、語法のミスが目立ちます。用法と意味を確認しておきましょう。

**◆ rate（率）**

percentageやproportionは100%を基準とした「割合」を指しますが、rateは特定の語と一緒に使われ、**100%以外の割合で表される**ことがあります。例えば、日本の出生率（**fertility rate**）は1.38です（2019）。この他にも以下のような形でよく使われます。

・ exchange **rate**（為替レート）/ crime **rate**（犯罪率）/ literacy **rate**（識字率）

**◆ ratio（比率）**

percentageやproportionの言い換えで使う人が時々いますが、Task 1で使うことはまずないので避けてください。rationは「比率」という意味で次のように使われます。

・ The male to female **ratio** of the company is 3:2. （その会社の男性と女性の割合）

・ The faculty to student **ratio** of the department is 10:1.（その学科の教員と学生の割合）

よって、rateは設問文にあれば使って構いませんが、percentage, proportion, figure, shareの4語をメインで使い、原則**言い換えで使用しない**、と覚えておきましょう。

**10位 art, arts, the artsの違いを理解して運用せよ！**

この3語はIELTS必須です。以下の違いを理解して運用するようにしましょう。

**◆ art（概念としての芸術、科目としての美術、芸術）**

包括的に「芸術」を意味する。芸術科目、美術という意味でも使われる。

contemporary **art**（現代美術）/ study **art** and music（美術と音楽を学ぶ）

**◆ arts（人文科目:** サイエンス系以外の科目**）**

history, philosophy, language, art, literatureが主な科目で、Task 2では「サイエンス系の科目とどちらを重視して学ぶべきか？」といった形でよく問われます。**humanities**と同じ意味ですが、使い分けは曖昧で「人文学科」という意味では大学により名称が異なります。また、アメリカでは**liberal arts**（リベラルアーツ）が幅広く使われます。これは上記のartsにsocial sciences（社会科学: politics, law, international relationsなど）の科目を加えた「教養科目」を意味する語です。

**◆ the arts（様々な芸術形態、芸術活動）**

**fine art(s)**とも呼ばれ、**観賞を目的とした芸術形態**を指します。非常に細かく分類されますが、主に次の区分と代表的な例は覚えておきましょう。

**・literature（文芸：文字化された芸術形態）**

➤ poetry（詩）, novel（小説）, creative writing（文芸創作）、drama（劇）

**・the performing arts（舞台芸術:** **聴衆の前で、演者が生で表現する芸術形態）**

➤ theatre（演劇）, dance（ダンス）, music（音楽）

**・the visual arts（視覚芸術:** 観賞物を創作する形態**）**

➤ painting（彩色画）, sculpture（彫刻）, photography（写真）, film(making)（映画）

**11位 reduceとoccurの使い方に注意せよ！**

この2語は用法を誤解して使いがちです。まず**reduce**は「**他動詞**」（～を減少させる）用法が一般的です。次の例文をご覧ください。

[✖] Energy consumption is expected to **reduce** next year. → 自動詞用法は不可

[〇] Businesses should **reduce** energy consumption. → 他動詞用法（目的語が必要）

続けてoccurについては、次のように受け身で使ってしまうミスがよく見られます。

[✖] The September 11th attacks **were occurred** in 2001. → 受け身は不可

[〇] The September 11th attacks **occurred** in 2001. → 自動詞で使う。

この他にも**increaseやdecreaseも受け身で使う人がいますが、能動態で**書いてください。よって、reduceは「**他動詞**」、occurは「**受け身で使わない**」という2点を覚えておきましょう。

**12位: maleとfemaleは原則形容詞！**

この2語は次のように「男性の」、「女性の」という**形容詞の用法が一般的**です。

例) **male** students（男子学生）/ **female** workers（女性従業員）

よって、man⇒ male、woman⇒ femaleへの安易な言い換えは要注意です。「男性」、「女性」と名詞で表現する場合は、manとwomanを使います。

➤ More **women** [✖ ~~females~~] are pursuing a career today in contrast with the past.

（昔に比べると、今日では、キャリアを求める女性が増えた）

ただし、maleとfemaleが名詞で使われる場合もあり、これもおさえておきましょう。特に専門的な以下の3つのケースがその例です。

**① 動物の雄・雌と表す場合**

例) **Males** attract **females** by making a sound.（雄は音を立てて雌を引き付ける）

**② 統計上の男女（フォーマルな用法。一般的にはmanとwomanを使う）**

例) the average life expectancy of **females**（女性の平均寿命）

**③ 生物学上、男女の区別を明確にする場合**

例) the genetic difference between **males** and **females**（男女の遺伝上の違い）

**13位 a number of = 「多くの」ではないので注意！**

a number of =「多くの」のような訳語を当てているテキストがありますが、これは誤りです。a number ofはsomeやseveralの類義語で、「**多くはないが一定数の、いくつかの**」という意味なので、manyとの言い換えはできません。「多くの」としたい場合は、largeやhugeを付けて表現します。以下の例でしっかりと違いを確認しておきましょう。

・ **a number of** students : 何名かの学生 (≒ some, several)

・ **a large [huge] number** of students: 多くの学生 (≒ many)

**14位 コロケーションを意識して語彙習得を心がけよ！**

**コロケーション（collocation**）とは「**語と語の自然な組み合わせ、相性**」のことを指し、語彙学習において非常に重要です。例えば日本語で「引く」と「引っ張る」はほとんど同じ意味ですが、「風邪を引く」は言えても、「風邪を引っ張る」は誤った日本語です。これは単純に「風邪」と「引く」の相性が良く、「風邪」と「引っ張る」の相性は悪いからです。英語でも同じように、例えば「ジョークを言う」はsay a jokeではなくtell [make] a jokeのように表現します。よって、語彙学習をする際は単語単体で覚えるのではなく、**どのような語とよく結びつくか、**というcollocationを常に意識することが大切です。加えて、「誤りではないが**使用頻度が低い組み合わせ**」も避けるべきです。例えば「～に深く関係している」はbe deeply linked with [related to] ～よりもbe **closely** linked with [related to] ～が自然なので後者で覚えるべきです。以下がIELTSで使う機会が多く、かつミスの多いコロケーションです。確認しておきましょう。

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| **訳語** | **✖** | **〇** |
| 健康を保つ | keep one’s health  | maintain one’s health |
| 問題を解決する | improve a problem | solve [address] a problem |
| 関係を築く | make a relationship  | build a relationship  |
| 自然と触れ合う | contact [touch] nature | commune [connect] with nature |
| 子供を育てる | grow children  | raise children  |
| ～に影響を与える | give an effect on ～ | have an effect on ～ |
| ～に害を与える | give damage to ～ | cause damage to ～ |
| ～の知識を得る | get knowledge of  | acquire [gain] knowledge of  |
| ～する可能性が高い | be highly expected to  | be highly likely |

ちなみにCollocation学習には次の2つが役立つので活用してください。

**・　Online OXFORD Collocation Dictionary of English**

➤ Oxford大学出版の辞書です。オンラインで無料で利用可能です。

**・ Academic Collocation List - PTE Academic**

➤ イギリスの出版社Pearson（ピアソン）が提供しているリストです。アカデミックな状況で必要な語彙が網羅されています。無料でPDFがダウンロード可能です。

**15位: 勘違い「和製英語」トップ3に要注意！**

ここではIELTSで使う機会が多く、誤解して使いがちな和製英語3語をピックアップします。ニュアンスの違いを理解して運用するようにしましょう。

**〇 ～にチャレンジする➤ [✖] challenge**

challengeは動詞で使うと「～に異議を唱える」という意味（to question and refuse）になり、challenge the decision [the evidence] （その決定[証拠]に**異議を唱える**）のように使われます。よって「新しいことに挑戦する」としたい場合は、**take on new challenge**sを使いましょう。

**〇 ～をマスターする➤ [△] master**

英語のmasterは「**達人レベルに達する**」という意味で、master Englishとすると大げさです。よって「一定の水準まで身に付ける」とする場合は**learn**が最も一般的で、ライティングでは少しフォーマルな**acquire**が好まれます。

・**learn [acquire]** a foreign language [job skills] （外国語[職業スキル]を身に付ける）

**○ 「メリットとデメリット」➤ [✖] merits and demerits**

まず**merit**は名詞では、イギリスやオーストラリアなどの学校の成績における「**優**」の意味で使われます（アメリカではVery good）。動詞だと**merit** special attention（特段注目を集めるのは**当然だ**）、**merit** further investigation（さらに調査が**必要である**）のように「**～するのは当然だ、～に値する**」の形が一般的です。一方**demerit**は、単語自体の使用頻度が非常に低いので、重要性は高くないと言えます。よって、「メリット」、「デメリット」の意味では次の表現を使うようにしましょう。

**・advantages and disadvantages / benefits and drawbacks / positives and negatives**

以上で「**重要文法＋語彙**」のレクチャーは終了です。お疲れさまでした。完璧に内容を吸収し、自然に運用できるまで少し時間がかかるかもしれませんが、何度も反復して確認し正確な文法と語彙力を高めていきましょう！